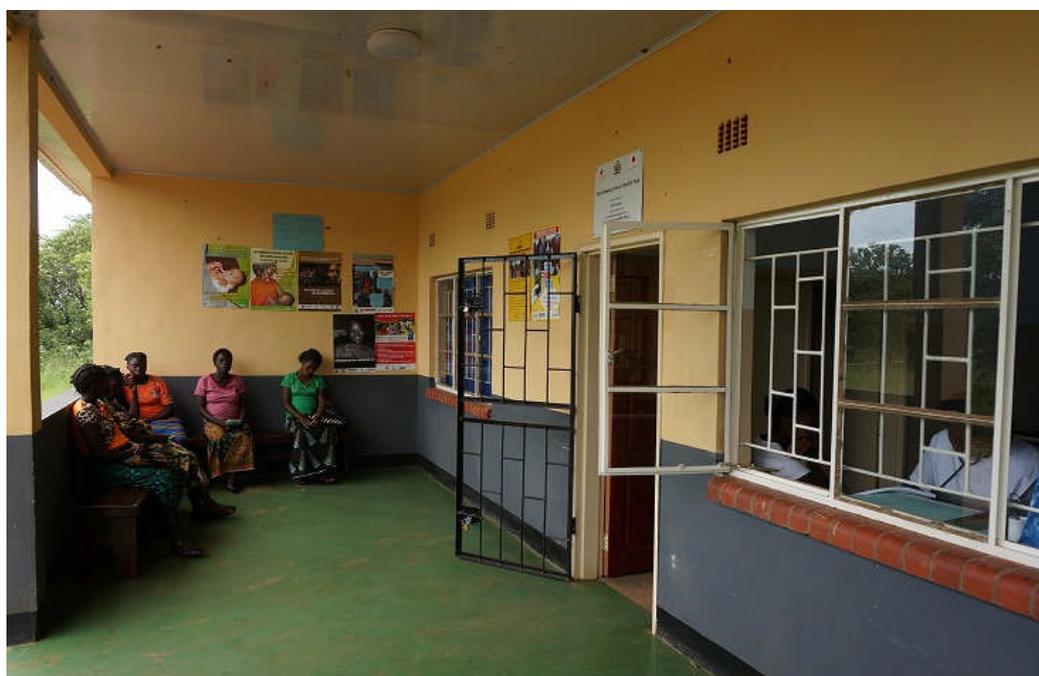


【添付資料1.】事業内容、成果に関する写真



【写真①】2016年10月末竣工、2017年1月より稼働し始めたオールドカブウェザ・ヘルスポスト正面。ヘルスポストの稼働によりチサンカーネ・ヘルスセンターへのアクセスが難しい地域住民が医療サービスを受けられるようになった。(2017年2月 オールドカブウェザ・ヘルスポスト)



【写真②】オールドカブウェザ・ヘルスポストの産科外来待合いスペースにて産前健診を待つ地域の妊婦たち。医療設備が整った場所で、雨期であっても雨を避けて妊婦健診を待つことができるようになった。(2017年2月 オールドカブウェザ・ヘルスポスト)



【写真③】 オールドカブウェザ・ヘルスポストの分娩室の様子。供与した分娩台や踏み台、乳幼児体重計が設置されている。ヘルスセンターが遠く、自宅で出産をしていた地域の女性たちが安心して出産できる体制が整った。今後地域の施設分娩を増やし、ハイリスクな出産の減少を担うことになる。(2017年2月 オールドカブウェザ・ヘルスポスト)



【写真④】 オールドカブウェザ・ヘルスポストに建設したスタッフ宿舎と給水塔。スタッフ宿舎に看護師兼助産師が居住し始め、運営を開始した。水へのアクセスが悪い地域であるが、井戸の掘削および給水塔建設によりヘルスポストおよびスタッフ宿舎において常時水の使用が可能となった。(2017年2月 オールドカブウェザ・ヘルスポスト)



【写真⑤】 オールドカブウェザ・ヘルスポストに建設した焼却炉。ヘルスポストで発生しうる医療廃棄物を焼却し、適切に廃棄できるようになった。（2017年2月 オールドカブウェザ・ヘルスポスト）



【写真⑥】 チサンカーネ・ヘルスセンター産科棟分娩室にて供与した医療用カートと新生児用体重計で出産直後の新生児の身長体重測定を実施する様子。新生児用体重計を供与したことにより出産直後に体重測定が可能になり、新生児が低体重児かどうかの判断がつくようになった。（2016年7月 チサンカーネ・ヘルスセンター）



【写真⑦】巡回診療補佐技能研修で看護師から血圧測定方法を習う地域保健委員会のメンバー。この研修により巡回診療で地域保健委員会のメンバーらが医療補助業務や記録業務が担えるようになり、巡回診療での役割が広がった。(2016年6月 カフエ)



【写真⑧】巡回診療補佐技能研修で5歳未満児体重測定 of 技術研修を受ける地域保健委員会のメンバー。体重計の目盛りを読むことのできなかったメンバーもこの研修で読み方を学び、巡回診療で体重測定ができるようになった。写真左は駐在員の栗村友美。(2016年6月 カフエ)



【写真⑨】ヘルスポスト建設前のオールドカブウェザ巡回診療の様子。巡回診療補佐技能研修で得た知識を活かし 5 歳未満児体重測定を行い、測定結果を健康カードに書く NHC メンバー。(2016 年 7 月 巡回診療地 オールドカブウェザ)



【写真⑩】巡回診療で HIV 検査を待つ母親の列。建物のない巡回診療地にテントを供与したことによって産前健診、HIV 検査をプライバシーが確保された状況で受けることができるようになった。(2016 年 11 月 巡回診療地 カニャンジャ)



【写真⑪】巡回診療補佐技能研修で住民保健記録台帳の書き方を学ぶ地域保健ボランティアのメンバー。この記録を書けるようになることで、地域の5歳未満児がどの予防接種を受けていないかなどを把握することができるようになった。写真右は駐在員の栗村友美（2016年8月 カフエ）



【写真⑫】組織運営力強化研修にて地域における地域保健委員会の役割について学ぶメンバーら。各地域保健委員会の代表メンバーらが参加した。（2016年5月 カフエ）